

## 9. 大阪府北摂地域におけるニホンジカの食性

○石塚 譲・川井裕史・因野要一・出雲章久（環境研究部）、西岡輝美（食の安全研究部）、庄澄子（近畿大学）、大谷新太郎（MP アグロ株）、入江正和（宮崎大学）

### 1. 目的

野生鳥獣による農林業被害は大阪府でも発生しており、北摂地域では、シカの生息数の増加にともない農業被害も拡大している。このため、多様な被害対策が実施されているが、これらの効果を上げるためにはシカの生態環境を調査することも重要である。そこで大阪府北摂地域におけるシカの第一胃内容物の組成分析および一般成分分析、糞中粗タンパク質の分析を行った。

### 2. 材料および方法

#### (1) 材料

材料は、大阪府能勢町（n=77）および箕面市（n=8）において有害鳥獣捕獲や狩猟等で捕獲された野生ジカの第一胃内容物、および大阪府能勢町内3地域で2004-2007年に収集した糞とした。

#### (2) 第一胃内容物組成分析

第一胃内容物の組成分析はポイントフレーム法で行った。植物片はグラミノイド（ササ・タケ以外、ササ・タケ）、木本（落葉広葉樹、常緑広葉樹、常緑針葉樹、枯れ葉、非同化部、繊維）、種実（果実/種子、堅果）、その他（草本、シダ、農作物、草本・シダ・農作物以外）に分類し百分率で示した。

#### (3) 第一胃内容物の一般成分および糞中粗タンパク質

第一胃内容物の一般成分および糞中粗タンパク質の分析は定法で行った。

#### (4) 統計処理

統計処理はSPSS 11.0J for Windows(エス・ピー・エスエス株式会社、東京)を用いた。

### 3. 結果および考察

#### (1) 第一胃内容物組成

年間を通してグラミノイド割合が高かった（42.0%-51.8%）。植物相の変化が大きい夏期と冬期の比較では、夏期でグラミノイド（ササ・タケ以外）、落葉広葉樹が高かった（ $P < 0.05$ ）。非同化部と枯れ葉は冬期で増加していた。秋は堅果類出現率が高く8.7%であった。性別で第一胃内容物組成は異なり、落葉樹は雌で有意に高く（ $P < 0.05$ ）、グラミノイド（ササ・タケ以外）は雄で有意に高かった（ $P < 0.05$ ）。2地域間の第一胃内容物成分割合は異なり、非同化部は箕面で高かった（ $P < 0.05$ ）。

#### (2) 第一胃内容物の一般成分および糞中粗タンパク質

一般成分では粗タンパク質と粗脂肪が夏期で高かった（ $p < 0.05$ ）。また、糞中粗タンパク質割合（%）は、地域で異なった。

以上から、北摂地域の野生ジカは、季節、性、および地域で食性が異なり、各地域や季節での植物相の違いなどが考えられた。

# 大阪府北摂地域におけるニホンジカの食性

環境研究部 ○石塚謙・川井裕史・因野要一・出雲章久

食の安全研究部 西岡輝美

(連携機関: 庄澄子(近畿大学), 大谷新太郎(MPアグロ株), 入江正和(宮崎大学))



1. はじめに:全国的に野生鳥獣による農林業被害が増加してきているが、大阪府でも例外ではない。野生ニホンジカが生息している北摂地域では、近年、農業被害が拡大している。大阪府ではシカ保護管理計画を策定し、有害鳥獣捕獲の実施や防鹿柵の設置、生息環境の整備等の被害対策を行ってきているが、これらの効果を上げるためにはシカの生態環境を調査することも重要である。そこで大阪府北摂地域におけるシカの第一胃内容物の成分分析、一般成分分析および糞分析を行った。

2. 材料:大阪府能勢町(n=77)および箕面市(n=8)において 2003-2008年に有害鳥獣捕獲や狩猟等で捕獲されたホンシュウジカ(*Cervus nippon centralis*)の第一胃内容物。大阪府能勢町で2004-2007年に3地域で収集した糞。

方法:第一胃内容物組成

第一胃内容物成分分析は自然環境研究センターの方法に基づいて処理し、ポイントフレーム法に準じて解析。植物片はグラミノイド(ササ・タケ以外、ササ・タケ)、木本(落葉広葉樹、常緑広葉樹、常緑針葉樹、枯れ葉、非同化部、繊維)、種実(果実/種子、堅果)、その他(草本、シダ、農作物、草本・シダ・農作物以外)に分類し百分率で示した。

第一胃内容物および糞の一般成分

定法に基づき、水分、粗タンパク質、粗繊維、粗脂肪、および灰分を分析。

### 3. 結果

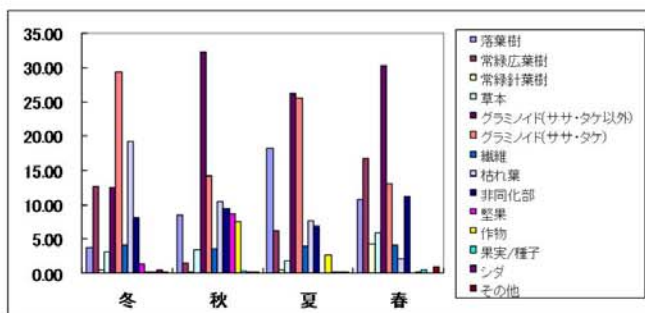


図1. 第一胃内容物成分

年間を通じてグラミノイド割合が高かった(42.0%-51.8%)  
植物相の変化が大きい夏期と冬期の比較では、グラミノイド(ササ・タケ以外)、落葉樹が夏期で高かった(P<0.05)。また、非同化部と枯れ葉は冬期で増加していた(図1)。

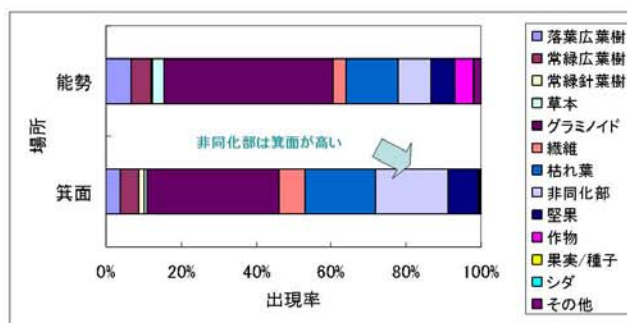


図3. 第一胃内容物成分(秋と冬での2地域の比較)

府内の地域によって第一胃内容物成分割合は異なっていた。非同化部は箕面で高かった(P<0.05)。<能勢:n=49、箕面n=8>

表1. 第一胃内容物一般成分割合(%)

項目	夏	冬
水分	9.5	9.0
粗脂肪	5.1	3.6
粗タンパク質	17.3	13.1
灰分	0.8	2.0
粗繊維	3.1	3.4

夏の方がタンパク質の高く栄養価の高いものを食べている

一般成分(表1)では粗タンパク質と粗脂肪が夏期で高かった(p<0.05)。

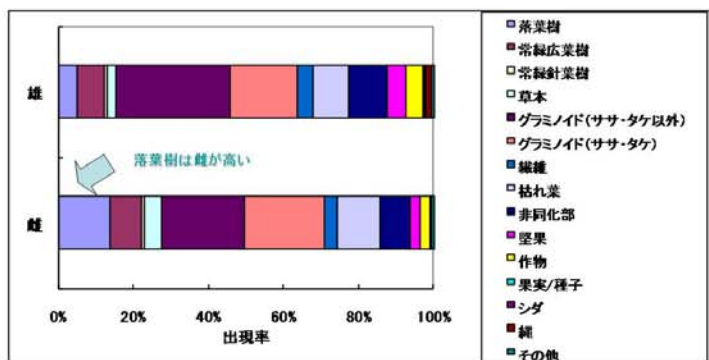


図2. 第一胃内容物成分(雄と雌の比較)

性別で第一胃内容物成分割合は異なっていた。落葉樹は雌の方が有意に高く(P<0.05)、グラミノイド(ササ・タケ以外)は雄の方が有意に高かった(P<0.05)。

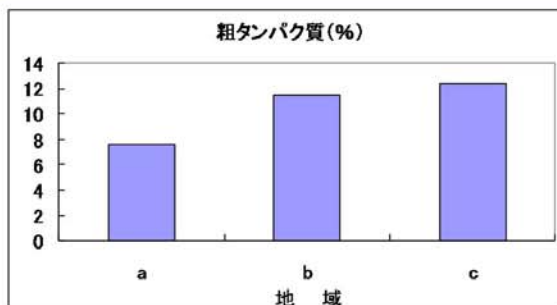


図4. 異なる地域の糞中の粗タンパク質割合

糞中粗タンパク質割合(%)は、地域で異なった。

北摂地域の野生ジカは、季節、性、および地域で食性が異なり、各地域や季節での植物相の違いなどが考えられた。